

創刊の辞

教育の仕事は常なる創造の過程である。人類の英知の結晶を、後続の人々の心に伝え育てる事業である。それは、教師自身が探求心を研ぎ澄まし、不断の研鑽と創意工夫によって、自らの専門領域を深く高く極めて行くことによって可能となる事業である。最も良く教えることのできる教師は、最も良く学ぶ教師であろう。

21世紀は知識基盤社会であるといわれる。創造的な知性から生み出される知的創造物が社会に新しい価値をもたらし、人々の生活と暮らしをクオリティの高いものへと誘って行く。これを担うのはもはや少数のエリートではなく、国民の全てに豊かな知性の生産が求められる社会。21世紀高度情報化社会は、種々の情報のたんなる機械的な受容とその利用ではなく、知の組み替えと創造・再創造による絶えざる価値の生産によって支えられる社会である。

この社会に求められる知性は、活動する知性である。激しく生動して止まない現代社会にあっては、以前は人類普遍の真理と見なされていたものも絶えず再検討の対象とされ、また、受容された知識も、状況を変数として再構成されることで現実に生きて働く力を獲得することが要求される。それは認識知レベルの知性ばかりではない。むしろ、実践知や技術的知性、臨床の知の重要性が、そして芸術的感性や身体文化に関わる知性の必要性が、かつてなく高まりつつある時代である。加えて、それぞれの人間が実現している独特の個性ある希少性が尊重される時代であり、国民の一人ひとりがそのような資質と能力を多彩に発揮することを期待される時代。

このような現代社会にあって、今日の教師の仕事は、出来合いの知識や技術をただ教えることではないであろう。学習者の心を深く耕し、頭脳を覚醒させ、身体的知性を育み、学び生きる喜びを魂の深奥に培いつつ、現代社会に生きる者にふさわしい創造的な知性を育成する教育を行うことが求められる。それは、広く世界に想いを馳せ、国際化社会の多元的で多様な文化を受けとめ、様々な価値観が交錯する社会環境の中で自己の世界観と人生観を練り上げ、創造的な知性と鋭敏で豊かな心をもって逞しく現実に立ち向かう精神を身につけた人間を育てるという“壮大な事業”へと繋がる、極めて価値高き仕事である。21世紀社会の教育の事業に課せられた意味は遥かに深く、その責務は尋常ではなく重い。

このような事業は、探求心に富み、常に研鑽に励み、情熱と創造的な知性をもって教育の仕事と対峙せんとする教師たちによって達成されるものである。良き教師であるためには、自己のMissionとする専門を深く極めなければならない。探究のない創造はない。専門を深く研究することで、教育は一層の深まりと輝きを獲得するであろう。

このたび学園が研究紀要を発行することとしたのは、学園の教師たちが自己の研究成果を発表する場を設け、よって学園と所属教員の教育活動の一層の発展に資することを意図したものである。研究紀要の発行が、学園と教員個々人の教育活動の更なる発展に結びつく豊かな稔りをもたらしてくれることを願うとともに、各教員の積極的な投稿を期待するものである。